

アトムフェスティバルを終えて。

田丸 あけみ

新園舎になり、初めて園庭で行ったアトムフェスティバルでした。心配していた天候も当日は、秋晴れに恵まれ温かい雰囲気の中、笑いあり、涙ありのフェスが無事に終わりました。フェスの片付けも多くのお父さんのお手伝いのおかげでスムーズに終了する事が出来ました。ありがとうございました。

子ども達の姿を見ながら、私は自分の保育所時代を思い出していました。

大人が決めた取り組みを、子どもは先生の言う通りに動き、「やりたくない」という自分の気持ちを抑え苦痛でしかなかった運動会でした。先生の言う事を聞かないといけない。「やりたくない」と言ってはいけないと、子どもながらに感じていました。

自分の本当の気持ちを聞いてほしい。そんな感情を幼いながらにずっと心の中に持っていました。だから、私は初めてアトムの運動会を見た時、大人が子どもの気持ちを聞きながら、子どもを尊重し、一緒に作っていく風景を見て感銘しました。今から18年前のことです。それから月日は流れ、時代も職員も変わりましたが、大事にしている事は変わっていません。

当日は、恥かしがっている子、楽しそうな子、負けて悔しがっている子、張り切っている子、葛藤している子、本当に色々な姿を見せてくれた子ども達でした。大勢の人がいる中で緊張している子どももたくさんいましたが、子ども達は「こんな自分です」という自己紹介を存分にしていました。我が子や他の子の新たな一面を発見したという保護者の人もいた事と思います。評価ではなく、我が子理解を深める事の大切さと、大人の柔らかいまなざしが、子どもにとって、“自分らしく育つ”ことに繋がっていくと思うのです。

大人が主導ではなく、“子どもが考えた子どもが主役のフェス”を温かいまなざしで拍手と声援を送っていただきありがとうございました。

{新園舎になり一年が経ちました}

ちょうど、一年前の今頃は、新園舎での生活が始まったばかりでした。途中入園児も多く、子ども達の泣き声が園舎中に響いていたことが、遠い昔の様に懐かしく感じられます。

平成26年10月20日に、新園舎の引き渡しがあり、11月からこの地での保育を再開しました。11月1日の児童数は148人でのスタートでしたが、0歳児だけでも19人。そのうち16人が新しい途中入園児という中、子ども達の泣き声が新園舎に響き渡り、職員は、前後に子どもを抱っこやおんぶの日々。クタクタになりながらの保育でしたが、それでも“やっと、ここでいつも通りの生活が出来る”そう思うだけで、前向きな気持ちになった事を覚えています。

今では、アトムっ子達はもちろんの事、家庭育児をしている親子や、アトムの日祝日保育を利用している町立保育所や民間保育園、幼稚園の子ども達、そして、地域の子供達、年配の方々まで、毎日色々な人がアトムを訪れます。

アトム共同保育園という場所が、子どもから年配の方まで、一人でも多くの人たちの居場所となればと願っています。

{訃報}

アトムに時折足を運び、子ども達に手品を披露してくれたり、夏にはすいか割りを子ども達に楽しませてくれた通称“中西のおじちゃん”が10月19日、老衰の為、87歳で死去されました。中西のおじちゃんは、アトムの子供達達の笑顔を生きがい、よくアトムに足を運んでくれていました。謹んでお悔やみ申し上げます。